

(4) 煙突高

排ガスによる周辺地域の気象への影響を明らかにするため、年間の風向き、風力、大気中の物質濃度などを調査しました。そのうえで、煙突の高さによる濃度の違いを算出し、煙突の構造、施工性、景観性などを加えて検討した結果、煙突高を59メートル（煙突天端標高680メートル）としました。



上空からのイメージ



新上野橋からのイメージ



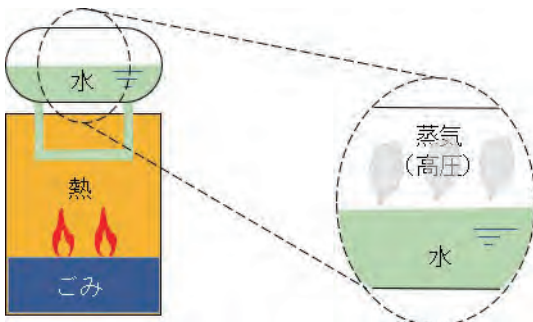
大気中の有害物質の調査 (東山台公民館)

(5) 防災機能

市民生活にとって重要な役割を担う施設とし、地震などの大規模災害に対して、十分な防災機能を確保します。
大きな地震にも耐えられるよう施設を強化し、停電時でも施設を稼働させて、発電や熱供給の行える施設として整備します。
災害発生時は、避難所として機能するよう食糧や水、毛布など防災備蓄品の確保も行います。

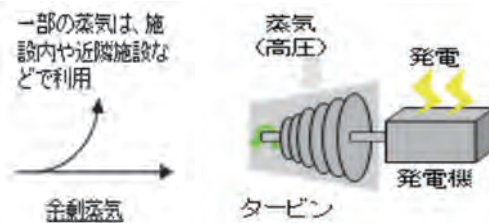


焼却熱を利用したエネルギー活用の仕組み



ごみは焼却炉で燃やされ、熱が発生します。

発生した熱で、水を加熱し、高温高圧の蒸気を生産させます。



発生した高温高圧の蒸気をタービンの羽根に当てることでタービンを回転させ、発電機を回すことで電気を発生させます。

(6) エネルギー利用方針

焼却によって発生する熱エネルギーを利用して発電を行い、資源リサイクルセンターで必要な電力を賄います。また、太陽光パネルの設置などにより脱炭素社会に適した施設にします。
併せてエネルギーを無駄なく有効利用するため、近隣施設への蒸気供給、施設内の融雪装置の設置による焼却熱の直接利用なども継続する予定です。



蒸気タービン (内部・羽根)



蒸気タービン (外観)